

農業開発センター大島支場の概要

1 所在地

奄美市名瀬浦上町7番1号

2 沿革

1902年(明治35年)大島糖業模範場として発足
 1912年(明治45年)県立糖業試験場となる
 1935年(昭和10年)県立農事試験場大島分場に改称
 1946年(昭和21年)大島産業試験場に改称, 県立農事試験場大島米麦原種場跡地に大島産業試験場浦上試験地を設置
 1956年(昭和31年)現在地(名瀬市浦上)に移転
 1958年(昭和33年)農業試験場大島支場に改称
 1987年(昭和62年)大島支場に亜熱帯果樹研究室と病害虫研究所の2研究室を設置, 名瀬市都市計画事業, 奄美離島振興事業による場整備, 奄美群島農業試験場整備事業により徳之島支場に3研究室を設置
 2006年(平成18年)農業開発総合センター大島支場に改称

3 組織及び職員数

- ◇支場長 1名 (研究職 1名)
- ◇総務室長 1名 (事務職 1名)
- ◇亜熱帯果樹研究室 3名 (研究職 1名) (労務職 2名)
- ◇病害虫研究室 5名 (研究職 3名) (労務職 2名)
- ◆合計 10名 (事務職 1名) (研究職 5名) (労務職 4名)

4 施設概要

◆敷地面積 40,200㎡
 第一圃場面積(畑) 11,700㎡ 第三圃場(果樹園) 8,300㎡

大島支場建物敷地, 第一圃場及び建物配置図



建物番号	名称	建物番号	名称
1	庁舎(本館)	10	塩肥倉
2	収容農具	11	果樹第2ガラス室
3	研究室	12	病害虫第3ガラス室
4	収納倉兼調査室	13	ポンプ室
5	農機具格納庫	14	果樹用パイプハウス
6	病害虫第1ガラス室	15	病害虫用パイプハウス
7	病害虫第2ガラス室	16	病害虫用パイプハウス
8	果樹第1ガラス室	17	病害虫用パイプハウス
9	ポンプ室	18	果樹用2溝式耕種ハウス



ガラス室



大島支場第三圃場及び建物配置図

①~⑮は、ほ場番号



建物番号	名称
1	収納倉兼貯蔵庫
2	収納倉兼農具庫
3	ミストガラス室
4	果実実験調査室
5	パイプハウス

5 主な研究内容

○亜熱帯果樹研究室

◇本県中晩柑の核となるタンカンおよび「津之輝」の安定生産技術の確立(H30～R4)

- ・タンカンの台木別高品質・安定生産技術の確立
- ・新品種「津之輝」の高品質果実安定生産技術の確立

◇気候変動等の影響を緩和する園芸品目生産技術の開発(H30～R4)

- ・マンゴーの着花安定技術の確立

◇奄美の核となるパッションフルーツの安定生産技術の開発(R3～7)

- ・新仕立て法の開発
- ・台風など自然災害を回避する栽植時期・枝梢管理技術の開発

◇日本一の産地を目指すトロピカルフルーツの安定生産技術の開発(R1～R5)

◇奄美プラム(カラリ)大玉新系統の高品質安定生産技術の確立(R1～5)

○病害虫研究室

◇サトウキビ安定生産のための病害虫防除技術の確立(S46～)

- ・メイチュウ類の発生生態の解明と防除技術の確立

◇さとうきび機械化一貫体系に適応する効率的な栽培技術の確立(R2～6)

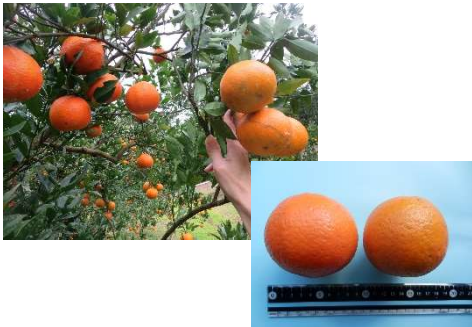
- ・株出し多収系統の黒穂病抵抗性評価

◇奄美地域の気候を活かしたトルコキキョウ高収益生産体系の確立(R1～5)

◇ドローンやセンシング技術を活かした果樹の病害虫防除管理効率化技術の開発(H30～R4)

◇グリーンング病の侵入に備えた媒介虫のスマート侵入警戒調査システムの構築(R1～R3)

6 これまでの成果等



タンカン新品種「平井Red」
の特性把握



奄美マンゴーの新しい作型
「少加温ハウス栽培」の開発



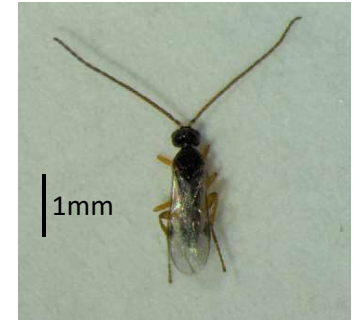
各種トロピカルフルーツ
の品種特性把握



イネヨトウに対する交信かく乱法
による有効性の検証



カンキツグリーンング病原細菌
を高精度に検出できる採取部位



イネヨトウ幼虫寄生蜂(ス
ムシサムライコマユバチ)の寄
生状況